

平成24年度町内遺跡発掘調査報告書

平成24年度国宝重要文化財等保存整備費補助金

2014年3月
長野県高森町教育委員会

例 言

- 1 本書は、長野県下伊那郡高森町における各種開発事業に伴う平成24年度町内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業として高森町（高森町教育委員会事務局社会教育係）が実施した。
- 3 調査遺跡（遺跡記号）は、唐沢原遺跡（KRS）・大庭遺跡（OON）・新井遺跡（ARI）・矢沢遺跡（YZW）の4遺跡4地点である。
- 4 調査実施にあたり基準点測量、遺構測量、空撮を㈸M2クリエイションに委託した。
- 5 本調査に係る調査組織は次のとおりである。

教 育 長	光沢郁夫
事 務 局 長	壬生照玄
社会教育係長	寺沢正寿
社会教育係	岩崎 徹
発掘作業員	小池義人・酒井好訓・菅野賢治・鳴海紀彦・松下梅治
整理作業員	上沼八重子・平 サク・高島佳奈
- 6 本調査に係る発掘作業、整理作業については、次の諸氏の指導・助言・協力をいただいた。
市澤英利、酒井幸則、松島高根、綿田弘実
- 7 本書に掲載した平成24年度調査遺跡地図は国土地理院1：50000地形図「飯田」を、各調査遺跡位置図は高森町都市基本計画図1：2500を1：5000に縮小して使用している。また遺跡全体図は唐沢原遺跡・大庭遺跡・新井遺跡が1：200、矢沢遺跡は1：500で掲載している。
- 8 本報告書では以下の遺構略記号を使用した。竪穴住居跡・竪穴跡－S B、土坑－S K、溝跡－S D
- 9 本報告書に係る資料は、高森町教育委員会が管理し、高森町歴史民俗資料館に保管してある。

目 次

例 言

目 次

平成24年度 調査遺跡位置図	1
1 唐沢原遺跡	2
2 大庭遺跡	7
3 新井遺跡	10
4 矢沢遺跡	13
報告書抄録	20

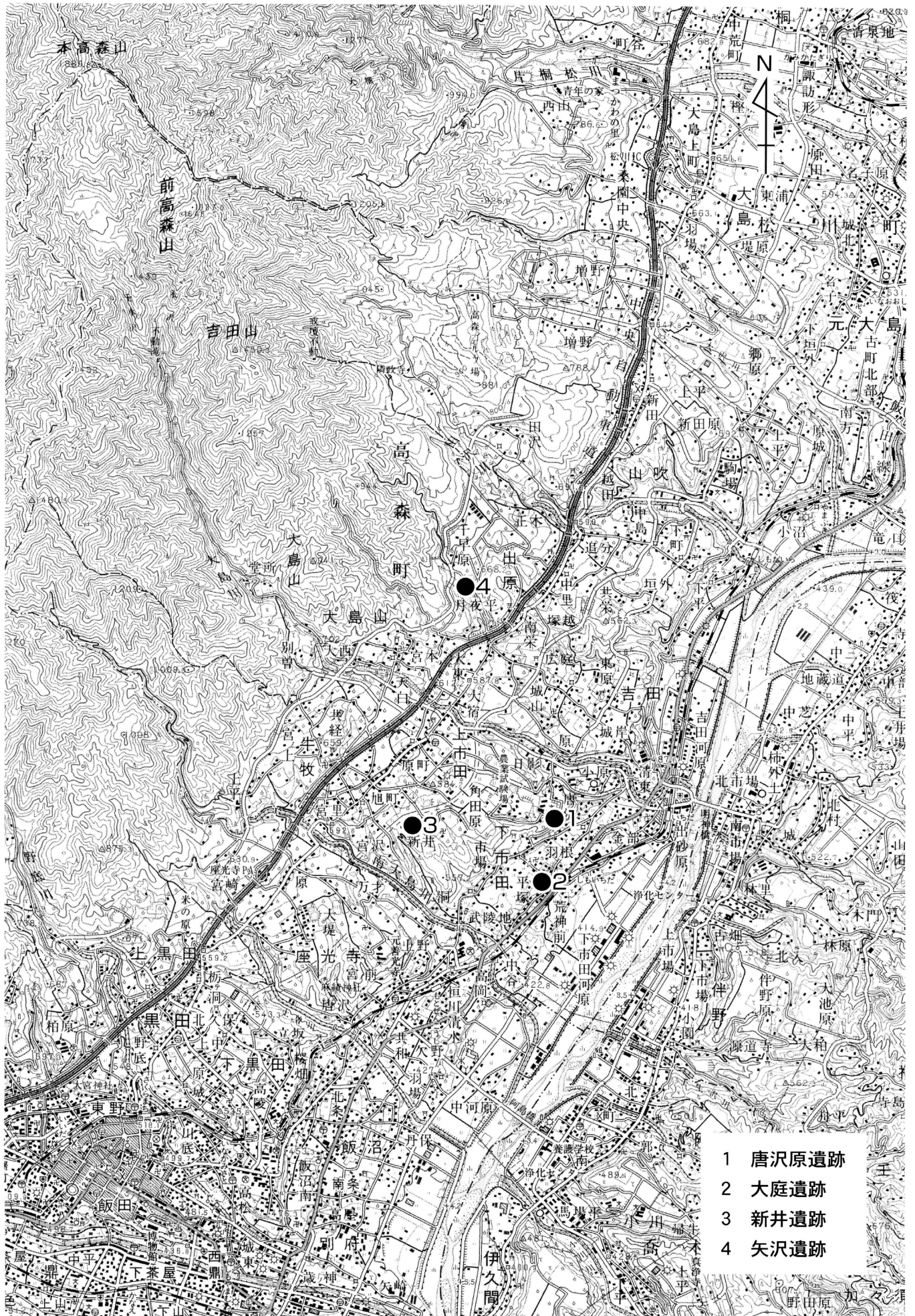


図1 平成24年度調査遺跡位置図 (1:50000)

からさわばら い せき 1 唐沢原遺跡

(1) 調査の概要

- | | |
|---------|-------------------------|
| 1 調査地 | 高森町下市田2288-9 |
| 2 調査期間 | 平成24年4月12日
～4月19日 |
| 3 調査の目的 | 試掘調査 |
| 4 調査の要因 | 宅地造成（側溝布設） |
| 5 開発面積 | 1104.54m ² |
| 6 調査担当者 | 岩崎 徹 |
| 7 調査面積 | 42.72m ² |
| 8 検出遺構 | 竪穴住居跡2（弥生後期）
土坑1、溝跡4 |
| 9 出土遺物 | 土器・石器（弥生時代） |

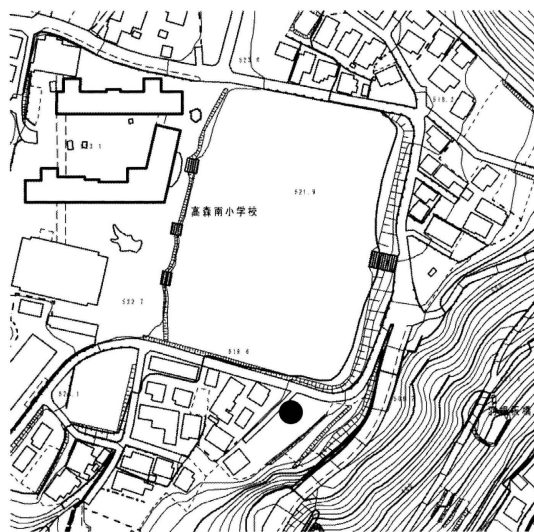


図2 唐沢原遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

高森町下市田地区北部の唐沢原段丘上、標高510m～530mに位置し、南北400m・東西300mの範囲に広がる。遺跡の時代・種類は縄文・弥生時代の集落遺跡であるとともに、遺跡内に3基から構成される唐沢原古墳群がある。また、遺跡の南側において範囲が重複する古御家城跡（中世）がある。

遺跡の約半分は高森南小学校の校地となっており、残る部分も住宅地化が著しく、開発度の高い地区である。昭和6～8年の市田小学校（現南小学校）建設の際、弥生時代の竪穴住居群が発掘され、出土遺物は下伊那の弥生時代土器編年のなかで後期前半の唐沢原式土器として設定された（後に唐沢原式から座光寺原式に変更された）。古墳3基のうち2基は小学校建設時に破壊、又は埋没され、猿楽塚（唐沢原1号墳）のみ現存する。本調査箇所は遺跡域の南東端部の段丘崖直上に位置し、古御家城跡に近接する箇所である。

(3) 調査の経過

平成24年3月26日付け、飯田市上郷飯沼1452-1 丸三総合開発有限会社代表取締役阿部敏政より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出書が提出された。当該地は「唐沢原遺跡」の南東端部に位置し、中世城館「古御家城跡」に近接しており、関係する遺構・遺物の存在が予想されるとともに、今後計画される住宅建築の際の資料を得ることを目的に試掘調査を実施することとした。

平成24年4月12日より試掘調査を開始した。調査は側溝布設部分へトレンチを掘削する方法で行った。作業は重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。この結果、弥生時代後期中島式期の竪穴住居跡2軒が土器を伴って確認された。遺構平面図を作成、記録保存を完了し、現地における作業を終了し、工事着手となった。

(4) 調査の所見

調査箇所は元々宅地であったが、弥生時代後期の遺構は十分に保存されている状況であった。今後、住宅建築が予定されており、今回の調査で遺構の深度がある程度把握できたので、届出の際の参考とすることができる。しかし、開発度の高い地区であり、今後も個人住宅の建設が予想されるため、周辺における開発には注意する必要がある。

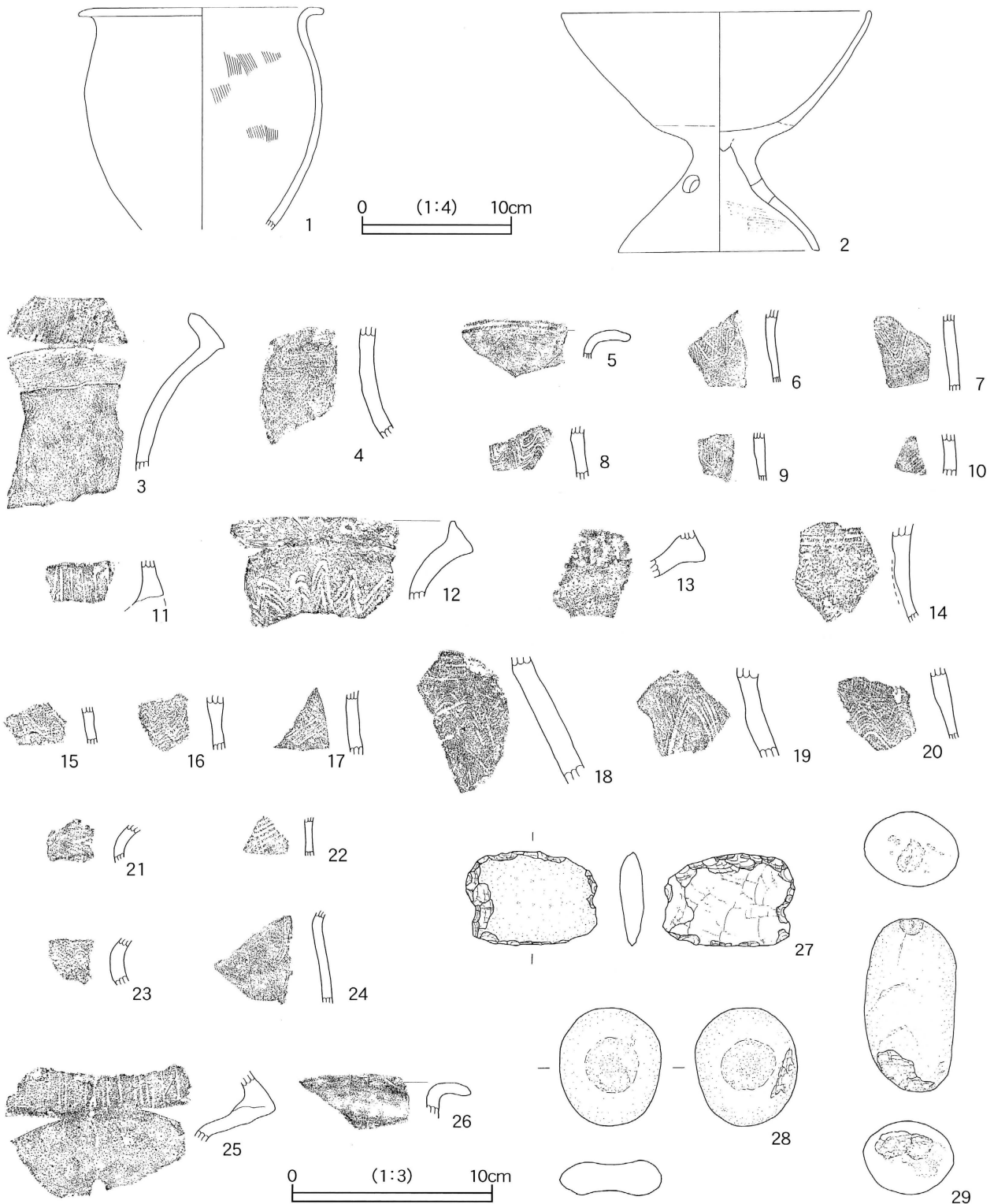


図3 唐沢原遺跡出土遺物 (3:SB1、4~10・29:SB1西、1・2:SB2、11~17・27:SB2、18~20・28:SB2東、21~24:SD1、25・26:側溝4)



SB1



SB2



出土状況 (SB2)

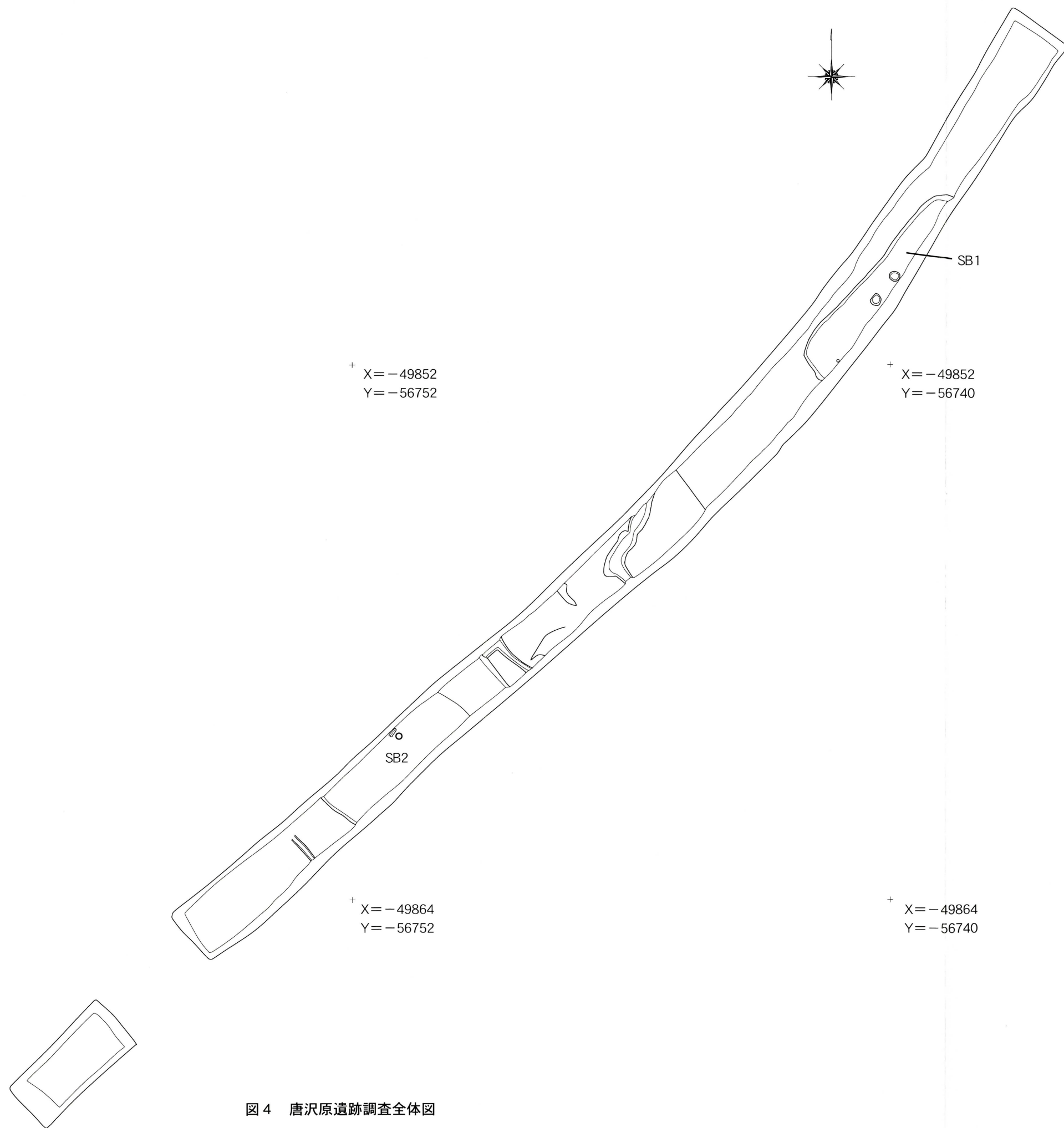


図4 唐沢原遺跡調査全体図

2 おおにわ い せき 大庭遺跡

(1) 調査の概要

- | | |
|---------|----------------------|
| 1 調査地 | 高森町下市田1176-1 |
| 2 調査期間 | 平成24年6月13日
～6月15日 |
| 3 調査の目的 | 試掘調査 |
| 4 調査の要因 | 住宅建設 |
| 5 開発面積 | 78.16㎡ |
| 6 調査担当者 | 岩崎 徹 |
| 7 調査面積 | 22㎡ |
| 8 検出遺構 | 竪穴跡2、溝跡1 |
| 9 出土遺物 | 土師器、須恵器（平安） |



図5 大庭遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

高森町下市田地区の低位段丘上先端部、標高450mに位置し、南北250m・東西200mの範囲に広がる。遺跡の時代・種類は縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の遺跡であるとともに、遺跡内に2基の古墳が確認されているが、遺跡全体の性格等は明らかではない。

(3) 調査の経過

平成24年5月1日付け、下伊那郡高森町1452-1 手塚俊文より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出書が提出された。当該地は「大庭遺跡」の東方に位置し、関係する遺構・遺物の存在が予想されるとともに、今後計画される住宅建築の際の資料を得ることを目的に試掘調査を実施することとした。

平成24年6月13日より試掘調査を開始した。調査は住宅建設部分の中心に東西へトレンチを掘削する方法で行った。作業員の手掘りにより掘削・遺構検出作業を実施した。この結果、平安時代と思われる土師器・須恵器、近世の陶磁器片が出土した。トレンチ図を任意の基準点を使用して作成し、現地における作業を終了し、工事着手となった。

(4) 調査の所見

調査箇所は現況畑であるが、明治期頃までは建物が存在している箇所とのことであった。それを裏付けるように、近世以降の陶器片が出土した。さらには縄文時代晩期末、平安時代の土師器・須恵器の出土により時代の確認がなされた。また、今回の調査で遺構の深度がある程度把握できたので、届出の際の参考とすることができる。しかし、開発度の高い地区であり、今後も個人住宅の建設が予想されるため、周辺における開発には注意する必要がある。

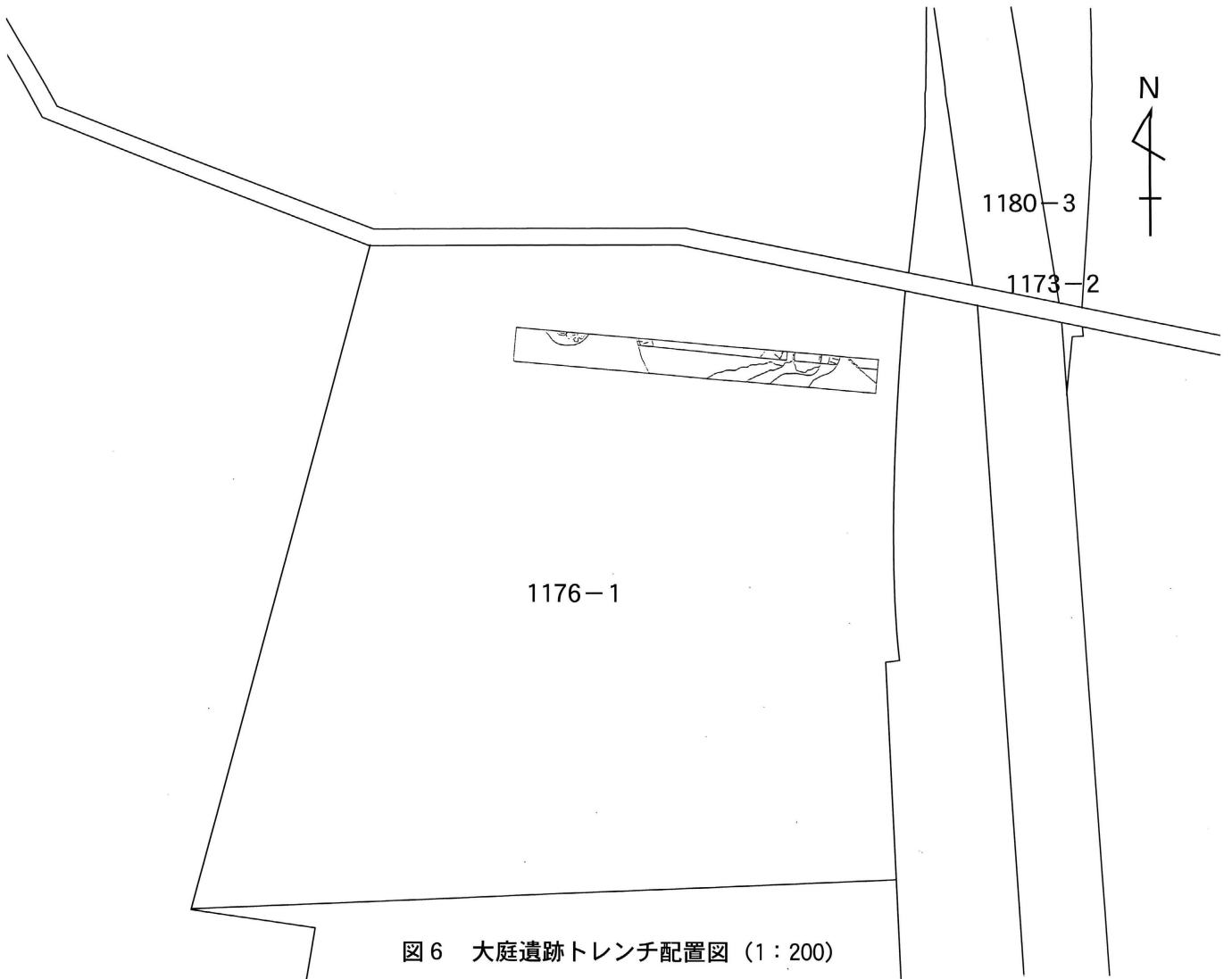


図6 大庭遺跡トレンチ配置図 (1:200)

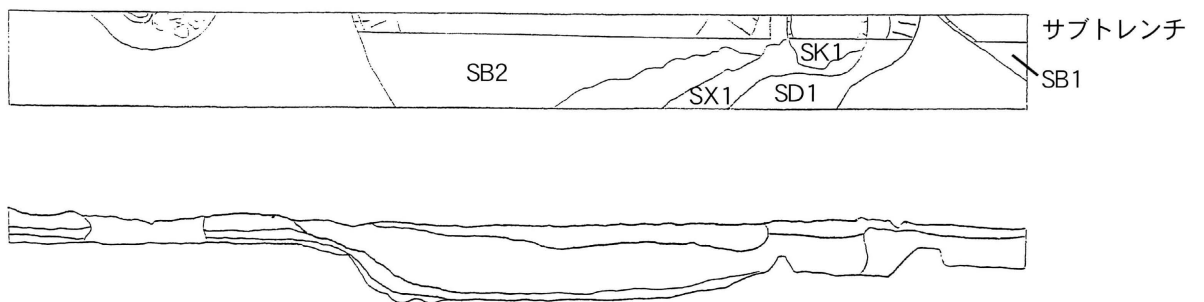


図7 大庭遺跡調査全体図及び断面図 (1:80)

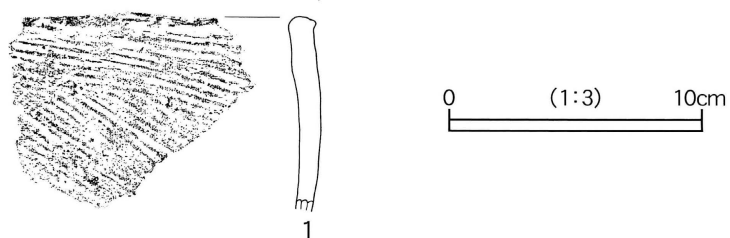
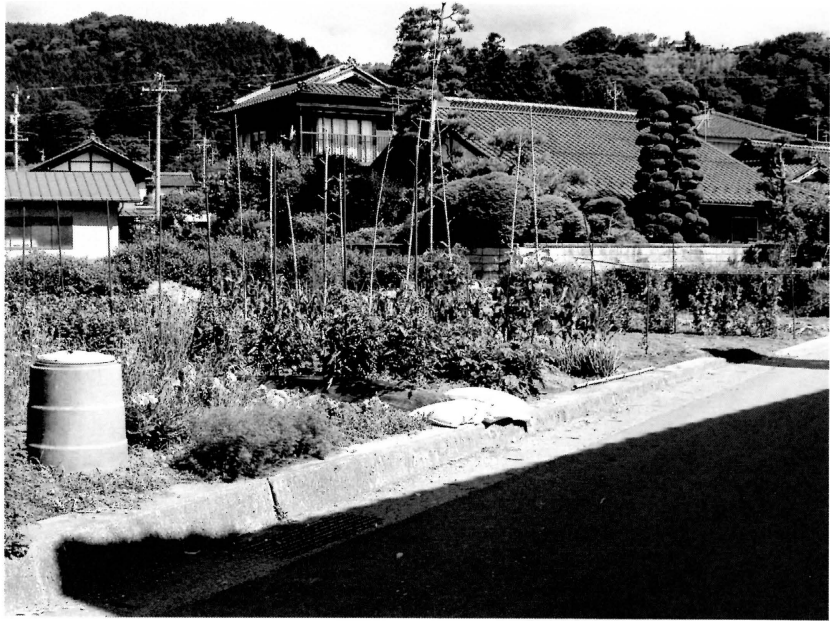


図8 大庭遺跡出土遺物 (1:SB1)



調査箇所近景



調査風景



トレンチ完掘状況

3 あらいいせき 新井遺跡

(1) 調査の概要

1 調査地	高森町牛牧150-12
2 調査期間	平成24年6月18日 ～6月19日
3 調査の目的	試掘調査
4 調査の要因	住宅建設
5 開発面積	70.4㎡
6 調査担当者	岩崎 徹
7 調査面積	20㎡
8 検出遺構	土坑11
9 出土遺物	土器片（縄文時代）



図9 新井遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

高森町下市田地区と牛牧地区の境、標高570mに位置し、南北300m・東西700mの範囲に広がる。遺跡の時代は縄文時代中期・弥生時代後期・中世とされており、平成8年度の広域営農団地農道建設事業に伴う発掘調査では、縄文時代中期後葉の住居跡3軒とそれに伴う土坑群が検出された。また、近接の宮沢遺跡では、縄文時代前期またはそれ以前の集石炉が検出され、縄文時代前期と同時代中期初頭の土坑も検出されている。

(3) 調査の経過

平成24年5月9日付け、東京都府中市宮町1-34-2 河合和夫より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出書が提出された。当該地は「新井遺跡」の中央に位置し、関係する遺構・遺物の存在が予想されるとともに、今後計画される開発事業の際の資料を得ることを目的に試掘調査を実施することとした。

平成24年6月18日より試掘調査を開始した。調査は住宅建設部分の中心に南北へトレンチを掘削する方法で行った。重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。この結果、住居跡等の遺構は検出されなかったが、土坑が11箇所検出され、縄文中期の土器片が出土した。トレンチ図を任意の基準点を使用して作成し、現地における作業を終了し、工事着手となった。

(4) 調査の所見

以前の調査で検出された住居跡の広がりも予想されたが、検出された遺構は、住居域とは異なる土坑のみであった。しかしながら、縄文時代土器片が出土していることから、集落の外縁部にあたる箇所とも予想される。果樹園地帯ではあるが、今後も個人住宅等の開発事業が予想されるため、周辺における開発には注意する必要がある。

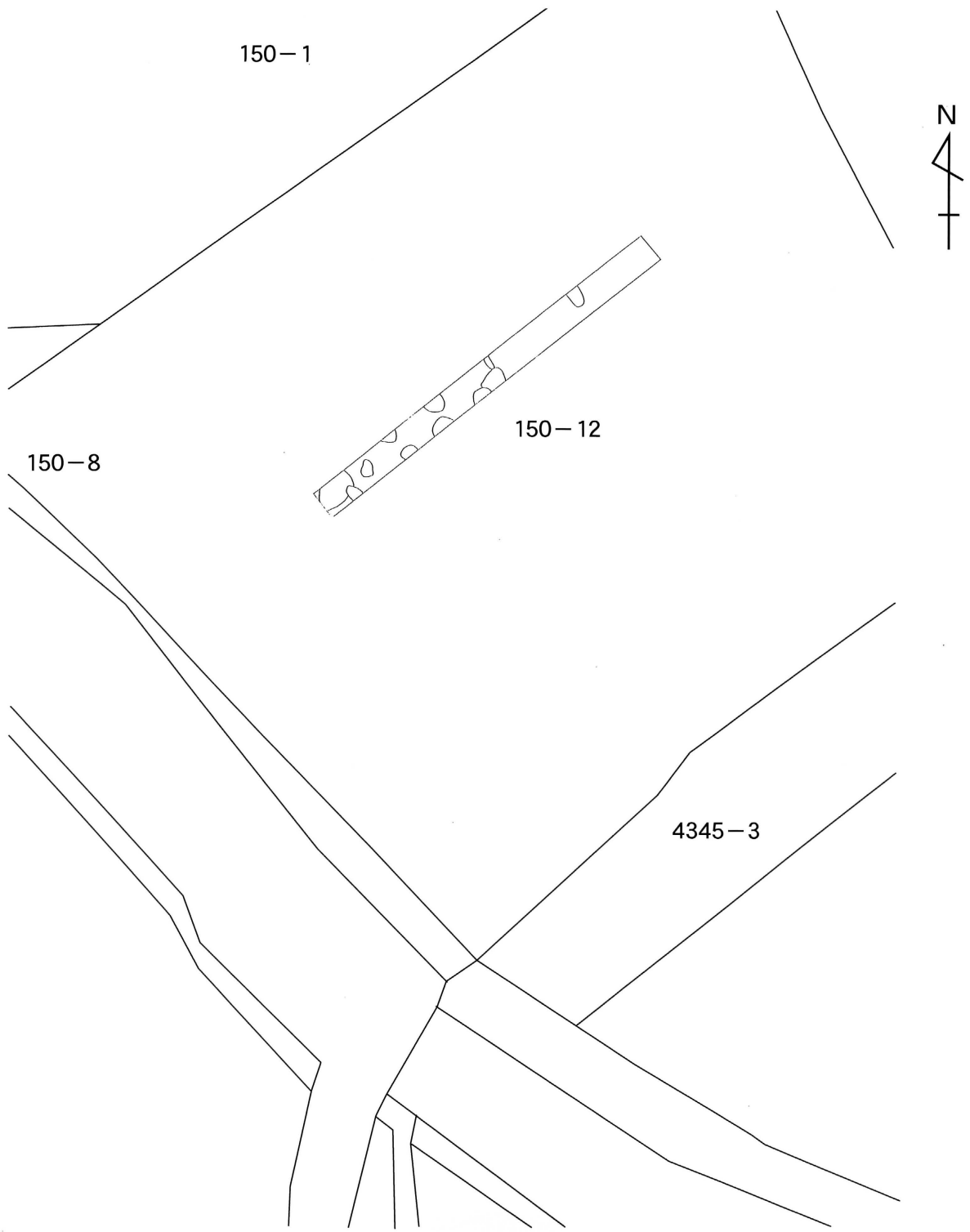


図10 新井遺跡トレンチ配置図 (1:200)

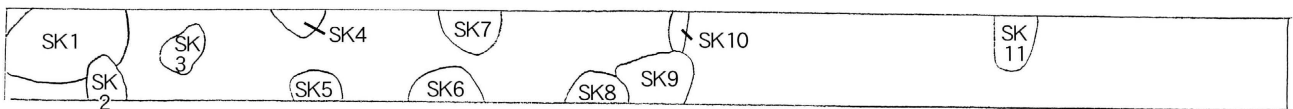


図11 新井遺跡調査全体図 (1:80)



図12 新井遺跡出土遺物 (1・3:SK1、4:SK4、5:SK9、2・6:T-1南端表土)



重機作業状況



トレンチ完掘状況



土層堆積状況

4 ^{やざわいせき} 矢沢遺跡（新発見）

（1）調査の概要

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 1 調査地 | 高森町吉田2734他 |
| 2 調査期間 | 平成25年1月23日
～1月31日 |
| 3 調査の目的 | 試掘調査 |
| 4 調査の要因 | 火葬場建設候補地 |
| 5 開発面積 | — |
| 6 調査担当者 | 岩崎 徹 |
| 7 調査面積 | 56㎡ |
| 8 検出遺構 | なし |
| 9 出土遺物 | 土器片（縄文中期～後期）
石器（縄文中期～後期） |

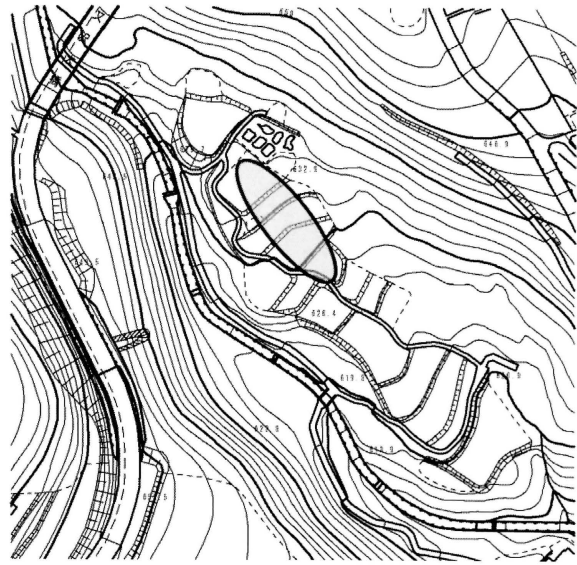


図13 矢沢遺跡調査位置図

（2）遺跡の環境

高森町吉田地区、標高約630m、北側には千早原遺跡、南には月夜平遺跡と、当地域を代表する大きな遺跡に挟まれた位置に存在する。当該地は、二又沢川により形成された低位段丘上にあり、現在は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外となっている。

（3）調査の経過

下伊那北部総合事務組合では、下伊那北部5町村による火葬場整備事業を進めている。各町村より候補地が選定される中、当町においては吉田小沼地籍が候補地に選定された。平成24年12月19日に県教委・町教委・事業者による三者協議の結果、当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるが、周囲の遺跡の状況、開発規模などから事前に遺跡の有無について事業決定前に確認することが必要と判断。開発の施工内容検討、また保護措置対応等、遺跡の有無のみだけではなく、今後の資料を得ることも含め、試掘調査を実施することとした。

平成25年1月23日より試掘調査を開始した。調査は切土造成が予想される範囲に、2m×2mのテストピットを14箇所設定し、遺物の有無及び遺構面までの深さを確認した。重機による表土の掘削後、作業員による検出作業を実施した結果、縄文中期～後期の土器片並びに石器が出土した。この結果を受け、新発見の遺跡として当該地の字名を遺跡名として矢沢遺跡とする旨1月30日付けで長野県教育委員会教育長あて、遺跡発見の通知を提出。2月13日付けで長野県教育委員会教育長より新たに発見された遺跡の保護の通知を受けた。調査地点の測量は㈲M2クリエイションに委託実施した。1月31日に現地における作業を終了した。

この調査結果を受け、2月18日に再度三者協議を行い、事業計画決定後には本調査を実施することとなった。

(4) 調査の所見

今回の試掘調査では、5箇所のテストピットで遺物が確認された。遺物の状況から縄文中期末から後期の遺跡と予想され、後期前半に主体がある。遺構までの深さについてもある程度の確認はできたが、遺物の出土したテストピットの2箇所は湧水のため確認はできなかった。遺物などの様子から、集落遺跡の可能性は低いと思われるが、本調査実施の際には、出土地点を中心に遺構の存在も含め、慎重に調査を実施していきたい。

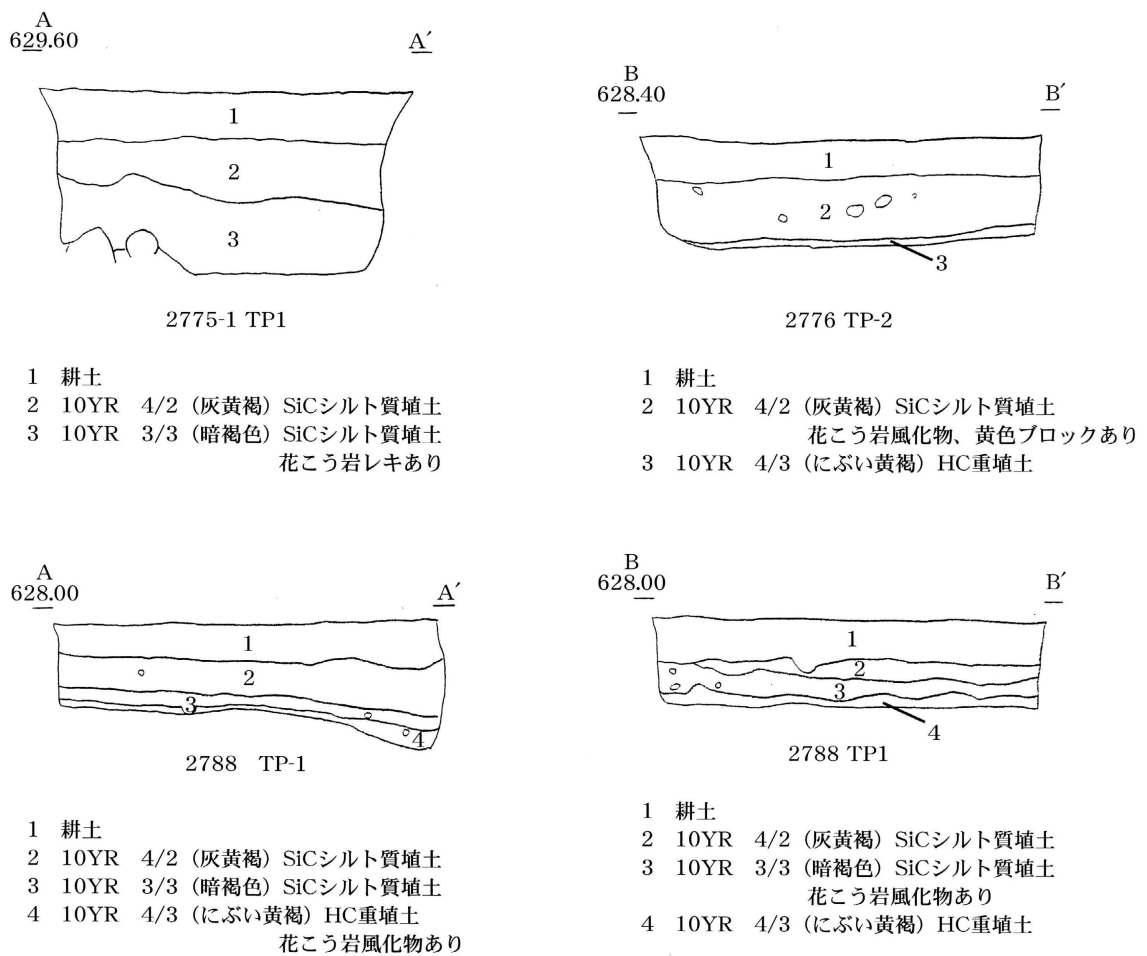


図14 矢沢遺跡テストピット断面図 (1:40)

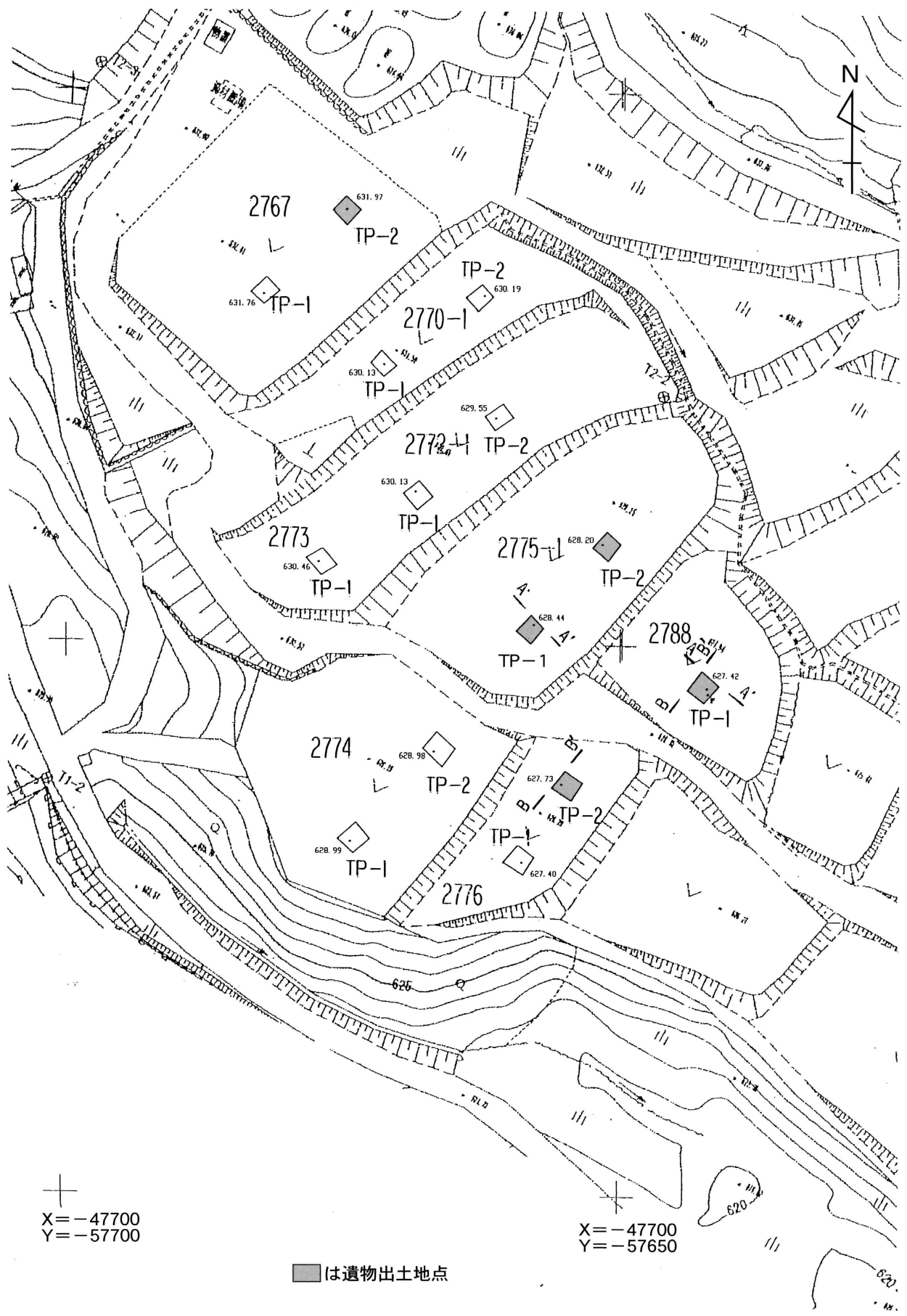


図15 矢沢遺跡テストピット配置図 (1:500)

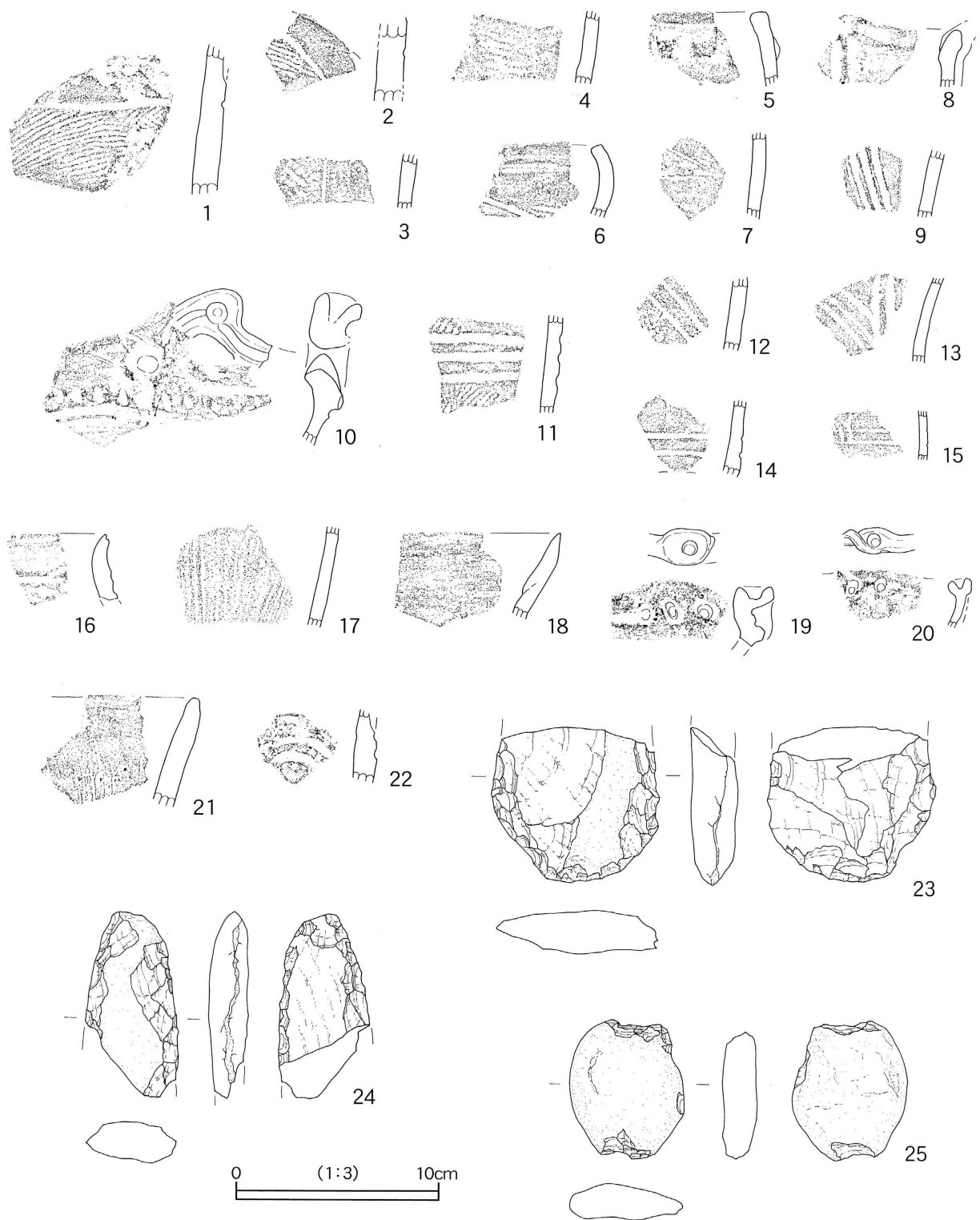
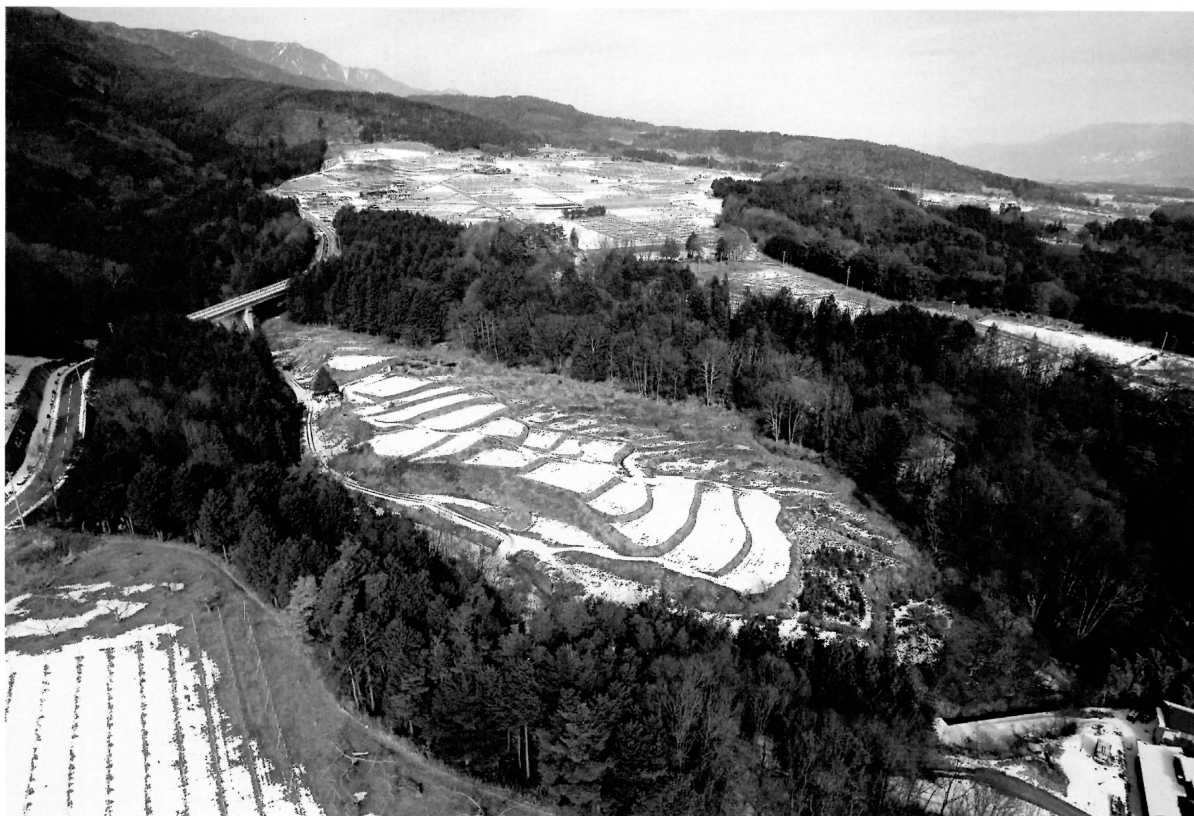
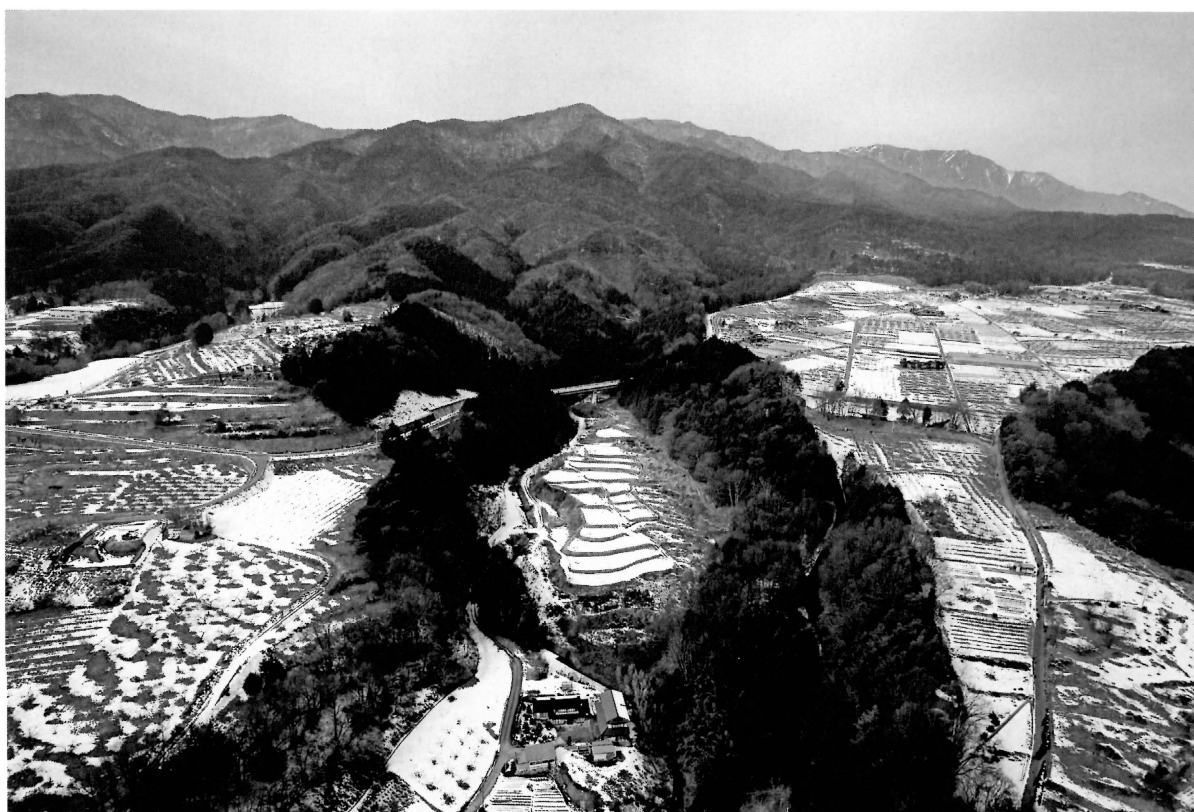


图16 矢沢遺跡出土遺物 (1~7・23・24:2767TP-2、8・9:2776TP-2、10~18・25:2775-1TP-2、19~22:2778TP-1)



調査区全景（南方から）



調査区全景（東方から）



作業状況



作業状況 (2788 TP-1)



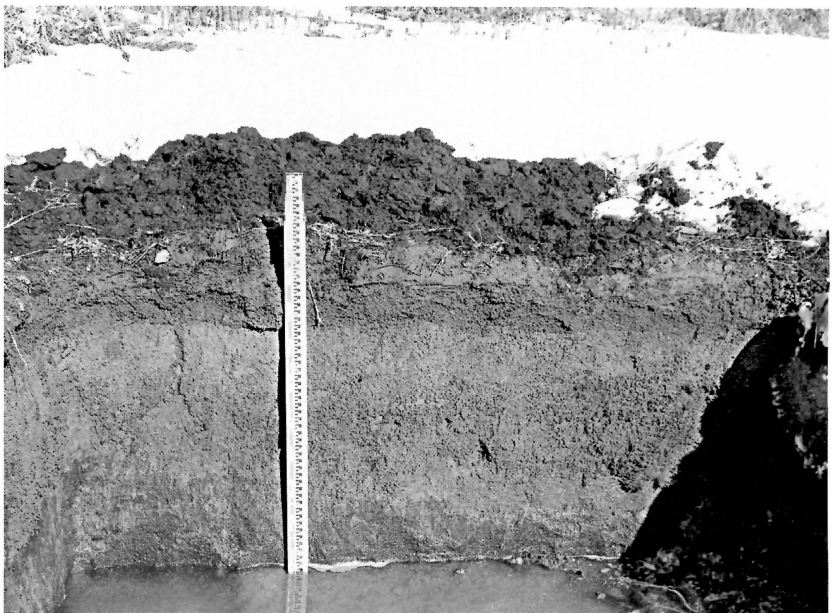
検出状況 (2788 TP-1)



断面 (2775-1 TP-1)



断面 (2788 TP-1)



断面 (2767 TP-2)

報 告 書 抄 録

ふりがな								
書名								
副書名	平成24年度高森町埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
著者名	岩崎 徹							
編集機関	高森町教育委員会							
所在地	〒399-3103 長野県下伊那郡高森町2183番地1 ☎0265-35-8211							
発行年月日	2014年(平成26年) 3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
から 唐 沢 原	高森町下市田 2288-9ほか	20403	95	35° 32′ 57″	137° 52′ 29″	平成24年 4月12日～19 日	42	宅地造成
おお 大 庭	高森町下市田 1176-1	20403	107	35° 32′ 38″	137° 52′ 20″	平成24年 6月13日～15 日	22	個人住宅
あら 新 井	高森町牛牧 150-12	20403	90	35° 32′ 55″	137° 51′ 28″	平成24年 6月18日～19 日	20	個人住宅
や 矢 沢	高森町吉田 2734ほか	20403	186	35° 34′ 10″	137° 51′ 48″	平成25年 1月23日～31 日	56	火葬場 候補地
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
唐 沢 原	集落跡	弥生時代	弥生後期 竪穴住居跡 2		弥生土器			
大 庭	集落跡	古代・中世	竪穴跡 2 溝跡 1		縄文土器 土師器(平安) 須恵器(平安)			
新 井	集落跡	縄文時代	土坑 11		縄文土器			
矢 沢	集落跡	縄文時代			縄文土器・石器		新発見遺跡 (本調査は H25)	

平成24年度町内遺跡発掘調査報告書

発 行 2014年3月
発 行 者 長野県下伊那郡高森町下市田2183-1
高 森 町 教 育 委 員 会
印 刷 龍 共 印 刷 株 式 会 社

